

社会人のための情報システム誌  
— 経営近代化のシステム研究 —

# Computer Report 3

2017 No.750

## 3 はじめの言葉

### 4 クラウド主流時代で

#### 求められる社会的配慮と常識

田原文夫

ネットワークベースでコンピューティングリソースを活用「クラウドサービス」が主流になってきた昨今の情報社会である。企業が自社自前のコンピュータリソースを持たずとも、第三者が提供するコンピューティングリソースを活用することで必要とされる情報処理が実現できたらどんなに便利なことだろう。高額な費用を使いながら自社の専門技術者を養成し、高価な自社専用のコンピュータリソースを導入し活用してきた時代に、多くのユーザー企業が夢想していたことである。当時から「コンピュータ要員を育成すること、コンピュータ資源を保有することが目的ではない。目的目標は、必要な情報処理を実施することにある」と多くのユーザー（企業）が認識していた。コンピューティングセンター利用、データセンター活用などが注目され、各種のサービスが存在していた理由でもある。しかし、これらはあくまでも主流の情報処理手段ではなかった。あくまでも補助的／補完的な情報処理手段だった。しかし、ここに来て大手企業ユーザーも、また、限りなく個人的なユーザーも、主要な情報処理手段ニーズとしてクラウドサービスを利活用するようになってきた。それだけに、また新たな問題点、改善要望もクローズアップされてきている。と同時に、様々な環境変化への対応力、認識力も求められているようだ。

## 10 情報社会を考える その78

### 情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

#### 危うい状況

歴史を捏造するということは、本当にあるものだと実感させたのが、トランプ米国大統領の「オータナティブファクト（もうひとつの事実）」という言葉である。彼は自身に都合の良い情報を排除したい典型的な人間であるようだ。これまで自分がオーナーである企業内では、その独裁的トップぶりを思う存分に発揮してきたであろうし、そのことから派生した性癖だと言えるかもしれない。伝わってくるところによると、彼の常套句は「ユアファイアード（お前はクビだ）」というものらしい。おそらく、彼のこれまでの人生の中で、幾度となく発されてきたフレーズだったことは想像に難くない。これをテレビキャスターとしての席で連発し、一部の視聴者から大受けしたらしい。

## 12 オープンガバメント OG 39

### 情報社会をすすめる

その73

水田 浩

1990年代に紙によるワークフローをデジタルにして、メインフレームと端末を使って事務系、技術系で個別に行われるようになり、1995年代にはインターネットが世界中で使えるようになってきた。そして、個別に開発されたシステムをより早く、より安く、よ

り良くつかうために製品やシステムのライフサイクル全体の統合化を模索するようになっていた。そして、産業別、国別のシステムとデータを世界共通にしてより生産性の高いビジネスをするために、世界共通の情報基盤を作らなければならないという認識が世界中で起こっていた。そこで、CALS の一つの製品、システム、サービスを全ライフサイクルで、「情報は一度つくって、幾度も使う」という運動は世界規模で受け入れられた。一つの CALS という概念（言葉）で 1995 年から 2005 年に掛けて世界中が一つになって運動を起こすようになった。

## 1 8 連載 アーキテクチャ論 (71)

### IT4IT と ITIL

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

本連載第 60 回で IT4IT を紹介した。IT4IT は、マイケル・ポーターが「競争優位の戦略」で提唱した価値連鎖（バリューチェーン）に基づいて、IT の開発運用保守活動を体系化している。オープングループが標準化している IT4IT では、顧客企業が共通的に活用できる IT 活動のための参照アーキテクチャを提供している。

本稿では IT4IT と ITIL などの業界標準を比較しよう。

## 2 6 連載 日本再生と人材育成

### 人口減少／少子高齢化時代への挑戦 その 2 6

#### 人材フル発揮のための就職/転職のステップとポイント Dr.ベスト

日本の人口減少/少子高齢化時代の原点にもどると、この先一人ひとり極めて貴重な人材（人財）であり、その意思と能力をいかにフル発揮できる仕事に就き、その活動を通して最大限の成果が得られるような働く仕組みを準備・提供していくかが喫緊の課題であるといえよう。人口減少/少子高齢化時代において最も重要なことは、数少ない人材のほとんど全員が自分の意思と能力にマッチした仕事に就き、その意思と能力がフルに発揮されるような状態が実現できることである。

## 3 4 IT 新時代とパラダイム・シフト

### 第 8 8 回 乳幼児まで影響を及ぼす

#### 育児スマホの実情

根本忠明

最近、乳幼児の育児にスマホを利用する育児スマホ問題に、社会の関心が集まっている。メディアの就学児童から中高校生・若者への影響については、テレビ・ゲーム・ネットなどにおいて、以前から注目を集めてきている。スマホでは、乳幼児の育児にまで懸念が高まっている。育児スマホの功罪の検証は現段階では難しいが、現状について報告したい。

## 3 7 続インテリジェンスへのいざない 86

### 今さらながら情報処理のはじめの一步

今井 武

インターネットの普及によって誰でも情報発信が可能となった。文字通り、ネコも杓子でもある。基本的人権として、思想の自由、表現の自由が保障されている。情報発信の自由だって当たり前で保証されている。それ故の試練に、人類は今、立たされている。

## 4 0 連載 四字熟語力トレーニング

すぎやまチヒロ

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

**CR選書**

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,816円＋税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付 録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**実践データ・ウェアハウス**  
**OLAP**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付 録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

aism 研究活動報告  
**インターネットセキュリティの**  
**落とし穴**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修  
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛準備心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2016年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたっての
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の**  
**情報システム革新**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**計量モデルの構造と解法**  
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分割方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**『いざ！というときの(得)広報』**  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,746円＋税 送料(〒300) A5版 226頁

加藤 洋一 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文も企業体質
■ ニュースリリースは東方向選定	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国際グローバルサーバー—  
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,846円＋税 送料(〒300) A5版 266頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 発端	第十一章 日本開発手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米商チーム崩壊の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たなチーム
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米商事務所移転と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開発フル稼働とバリエーション
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番稼働日誌
第八章 米商チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働中の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米商チーム、異なる三人組	第二十章 稼働中の二 安眠薬と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)